

県会議員 奥村のり子の
読者ニュース

2018年8月5日 第322号

——奥村のり子生活相談所——
〒640-8212 和歌山市杉ノ馬場 1-11
☎ & FAX 073-427-7121
Eメール w-jcpken@naxnet.or.jp



市長選へのご協力に感謝します
希望と勇気をもろう選挙戦でした

読者のみなさん、歴史的な市長選挙が終わりました。結果は残念でしたがみなさんと一緒に戦えたことがこれからの財産になりました。猛暑の中、奮闘された候補者島くみさんに心から敬意と感謝を申し上げます。JR前最後の訴えでも走って車上に立たれ市民一人一人に迫力のあるお話をされました。選挙結果は大変残念でしたが、投票結果を受けてのあいさつで

「市民と野党の共闘でたたかったことは最高の喜びと誇り」と言われたことに希望と勇気ももらいました。カジノ誘致を許すなど訴え続けたことに市民から多くの共感や励ましが得られたことも紹介されました。たたかいで得られたつながりを大切にしながら市民が主人公の市政実現のためにともに頑張りたいと思います。これからはスタートだという思いを強くしています。(奥村のり子)



市民と野党の共闘による歴史的な首長選。皆さん本当にご苦労様でした。

先月の豪雨被害

先月の豪雨災害で西日本を中心に甚大な被害が出ました。

総務省の発表によると死者約200人、重軽傷者約400人、住宅被害は、全・半壊約7500棟、床上床下浸水は、約3万5千棟となっています。

和歌山市は、中国地方に比べ被害は少なかったものの、床上浸水や土砂崩れ、道路の冠水など大きな被害が生じました。床上浸水の被害を受けたお宅でお話を伺うと、災害支援制度の活用には介護保険課など5、6箇所窓口を回るなければならなかったことや、2009年の大雨被害の時と比べ、高齢になり畳の張り替えや洗浄などの後始末に苦労したと話

党市議会議員
中村あさと



和歌山市でも床上浸水や土砂崩れ、道路の冠水が



しておられました。また、別のお宅では、被害は床上浸水だったが、湿気対策に床下に設置していた石灰の袋が水に浸かり処分が困っていると相談がありました。45リットルのゴミ袋が3、40は必要な程の量で高齢の方には手に負えない様でした。災害の後始末もままなりません。(写真・右端が中村です)

洪水ハザードマップなく「ダム安全神話」頼り？
台風12号は統計開始以来初めての進路

今年の7月は、上旬から始まった西日本全域にわたる豪雨被害、そして月末の台風12号と災害だらけでした。29日の日曜日は「日刊赤旗」を配達する当番で前夜からテレビの台風情報を眺めつつ寝てしまい、いつもどおりガラケイに起こされて配達。風は予想より軽めだったが強い雨に悩まされ、緊張しました。この台風は1951年の統計開始以来初めて関東の南海上を北上し三重県に上陸。近畿、中国、四国、九州と再び西日本豪雨地域へ進み各地に大きな被害です。

西日本豪雨で7月25日の日刊赤旗14面掲載の愛媛県西予(せいよ)市野村地域で「650棟浸水・5人死亡」も本当にお気の毒でした。野村ダム直下の野村地域に大規模な浸水被害も想定せず、西予市も「洪水ハザードマップ(被害予測地図)」を作らず「ダムが守ってくれる」...という過信、ダム「安全神話」があったのでしよう。

7日午前6時20分。野村ダムの貯水位がピークに達し毎秒約1800トンを放流。安全放流量は毎秒300トンと言うから6倍です。国交省は「放流はやむをえず、住民への周知も適切だった」と無責任な言い訳だが、付近住民は「警報は聞いていない、近所でも『知らん』という人が多い。土砂降りの中で聞こえず、ダムが自分たちを守ってくれているものと思ってきたのに」と憤ったそうです。「安全神話」は想定雨量を超えれば無力です。治水のあり方を根本から見直さないといけない」と専門家の談話も掲載。(編集室)

- のり子の週刊日誌(主なもの)
- 8月3日 市駅前・宇治交差点宣伝 市産廃課聞き取り 地域訪問
 - 4日 地域訪問
 - 5日 会議 河北後援会交流会
 - 6日 河西事務所無料生活相談
 - 7日 会議
 - 8日 全県党議員研修会 環境を考える会 メガ住民の会世話人会
 - 9日 市駅無料生活相談

